

● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 彫刻

【名称】木造神像（もくぞうしんぞう）

男神女神坐像 2 軀（だんしんじょしんぞう）

女神坐像 1 軀（じょしんぞう）

神像 2 軀（しんぞう）

【員数】5 軀

【所在地】四日市市下之宮町 319（耳常神社）

【年代】平安時代・室町時代

【概要】

本像は、耳常神社（みみつねじんじゃ）に伝来した、平安時代と室町時代の神像5軀です。神像とは、神の姿をあらわした彫刻や絵画のことで、日本では平安時代以降に多く作られました。

「男神女神坐像」は、材質、構造や作風が共通し、大きさが釣り合うことから一具の像とみられ、平安時代（10世紀末～11世紀前半）に制作されたと考えられます。男神坐像は冠を被り、袍（ほう）を着ています。女神坐像は、髪を頭頂で結び、左手に持物（じもつ）を持っています。「女神坐像」は、制作技法や表情から、室町時代に制作されたと考えられます。「神像」2軀は、表面が全体的に摩滅しているため性別等は不明ですが、現存する頭と体の比率や体形から、平安時代の制作と推測されます。

本像は、三重県内に残る数少ない平安時代の神像であるとともに、ひとつの神社に伝来した神像群として重要な事例といえます。



男神女神坐像 2 軀



女神坐像 1 軀



神像（1）



神像（2）

【大きさ・構造・材質】

男神女神坐像

男神坐像 41.6cm 一木造 針葉樹材（ヒノキか）

女神坐像 36.3cm 一木造 針葉樹材（ヒノキか）

女神坐像 25.9cm 一木造 針葉樹材（スギか）

神像（1） 29.6cm 一木造 広葉樹材

神像（2） 26.3cm 一木造 広葉樹材